

## 学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 令和3年度岐阜県立池田高等学校 学校運営協議会 (第3回)
- 2 開催日時 令和4年1月25日(火)
- 3 開催場所 池田高等学校会議室(書面開催)
- 4 参加者

会長	小林 月子	サンビレッジ国際医療福祉専門学校長
副会長	杉原 孝	育友会長
委員	仲井 智一	池田町教育長
	宇野 秀宣	神戸町教育長
	伊藤 敦	池田町立池田中学校長
	山田 直人	神戸町立神戸中学校長
	西尾真奈巳	神戸町地域代表
	西川 昭	元池田高等学校育友会役員
	寺戸 敏彦	池田町杉野区長
	安田 正博	元池田高等学校育友会役員
		垂井町青少年県指導員
学校側	西谷 徹	校長
	杉江 祐子	教頭
	若園 佳織	事務長
	吉田 一臣	教務主任
	稲葉由里子	生徒指導主事
	古山 克幸	進路指導主事

### 5 会議の概要(協議事項)

(1) 「令和3年度 自己評価・学校関係者評価」について

#### 【学校側】

「令和3年度 自己評価・学校関係者評価 報告書①～④」を踏まえ、評価をお願いしたい。

#### 【アンケートより】

##### ①学校経営

意見1：本校ならではの方針が示されている。ユネスコスクールの掲げるESDへの挑戦とSDGsを結びつけた「探究活動」を教育の方針として掲げ、その実現に学校全体で組織的に取り組んできたことは高く評価できる。スクール・ポリシーの策定も同様のスタンスがみられた。

意見2：本校の特色が、「単位制普通科→生徒の進路実現に向けた願いが生きる学びの構築」「ユネスコスクール→生徒の生き方を豊かにする目標の設定と実践」という2つの側面から明確に示されており、保護者だけでなく中学生にもわかりやすい。

意見3：学校設定教科「地域」における「国際交流」について、新型コロナウイルスの感染拡大による影響から、少なくとも令和4年度(場合によっては令和5年度)は海外研修が実施できず、「国際交流」コースの目的や内容について若干の変更が必要である。

意見4：ユネスコスクール、SDGs、探究活動を積極的に推進され、社会に必要とされる内容を進められた。本校は、グローバルな学校として必要とされる学びやとなることを期待する。

意見5：新たな挑戦をしていることがよくわかる。「スクール・ポリシー」の策定による具体的な成果を生徒の姿で見せてほしい。

意見6：ESD、SDGsと関連させた探究活動について、具体的な取組の内容やその評価が明確であり、教職員・生徒にも浸透しているため、とてもよい。

意見7：先生と生徒が同じベクトルで進んでいると感じた。また、進んでいきたいという意識がある。

意見8：組織体としての協力体制の強化を望む。

意見9：項目11の教授活動とは、教授する活動、または、享受活動か。

⇒本年度、授業アンケートのデータを基に、精力的に授業改善を推進してきた。その結果、教員側に、単位制で展開する習熟度別授業や本格的な探究活動に向けての改善への意識が根付いてきた。そのことを意味する「教授する活動」のことである。

意見10：令和4年度から単位制になるということで、何か新しい、子どもたちにとっての将来の道幅がまた広がると思う。

意見11：単位制への準備がしっかりできている。何か問題が起きたら、早期に修正をお願いしたい。

## ②教育課程・学習指導について

意見1：学校をあげて授業改善及び生徒の学習習慣の定着の試みがなされ、その効果が上がっていることは高く評価できる。相互授業参観、授業アンケートの実施と分析、スタディサプリの活用を行い、現状を可視化・データ化することによって、生徒一人一人の現状（習熟度を含む）にあわせた教育の実践をめざし、実行されている点は評価できる。

意見2：単位制への確実な移行やESDのより積極的な推進が、就職から国公立大学進学までの、多岐にわたる進路希望をもっている生徒に対し、個別最適な学びを実現するための有効な方策である。

意見3：SDGsにとどまらず、更に考えを深めてほしい。

意見4：家庭学習の充実は、小中学校においても課題であり、なかなか有効な手を見出すことができないのが現状である。塾へ行っている生徒の人数や目的などを参考に、放課後補習のさらなる充実が、家庭学習の習慣化につながるのではないかと考える。

意見5：来年度に向けての改善に、家庭学習とある。中学校では、家庭学習が学習塾での学習になっている。そのため、本来の自分で進める家庭学習の力がついているのか心配である。

意見6：家庭学習が不十分というのは我が家も同じで、テスト前にはなにがしか教材を引っ張り出して勉強はしているが、平日はせいぜい課題を終わらせるくらいである。「やりなさい」という年齢でもない。

意見7：ICT機器の活用が積極的に行われており、個別の学びが保障されている。一部の生徒だけでなく、全生徒がICTを利用した発信力を身に付けてほしい。

意見8：タブレットPCは上手に使えばすごくよいツールである。ICTを使った学習が始まったばかりなので、修正しながら進めてもらいたい。

意見9：ICT機器を活用した内容を生徒自身が小学校へ教えにいくという流れが出来るとうすばらしい活動になる。

意見10：ICT活用によってさまざまな学び方になっているので、保護者の理解を得るのが難しい。活用術を探究する必要がある。

## ③進路指導

- 意見1：コロナ禍でもガイダンス等の進路指導を工夫しつつやり遂げたことを評価する。こうした行事だけでなく、日頃から、生徒自らが自分の関心や適性、将来の夢などを発見し、行動を起こさせるような環境をつくとさらに効果が上がる。
- 意見2：国公立大学への進学指導が最優先ということではなく、就職希望者に対しても、個に応じた丁寧な指導を継続した結果、コロナ禍の厳しい環境の中であっても、安定した採用に至ったことは、大変よかった。
- 意見3：地域の安定した高等学校としての安心感から、本校を志望する中学生や保護者は少ない。今後も、幅広いニーズに対応する進路指導を進めてほしい。
- 意見4：進路にかかる情報発信が、保護者・生徒共に高い理解を示しているところがよい。
- 意見5：コロナのために、日程・内容ともにイレギュラーな事ばかりで、皆が戸惑った2年間だった。その中でも進路が決まり、特に就職希望者の内定者が多く出た事はとてもよかった。
- 意見6：国公立大学への進学など、1年生から始めたスタディサプリ等の教育支援ツールの効果の表れである。今後も続けてほしい。
- 意見7：岐阜県の医療、看護分野を支える人材育成の拠点となるように、更なるサポート体制の充実を望む。
- 意見8：入学当時の目標を、忘れることなく持ち続け、努力することで夢が実現できる高校生活にしてほしい。
- 意見9：コロナによって学びが影響を受けているため、「感じる」という部分が欠如している。自分の想いの方向性を見失っている。
- 意見10：生徒が進むべき道をわかりやすく示し、選択しやすくすることで、学ぶことの楽しさをつかませ、その道への興味を一段と深めていってほしい。

#### ④生徒指導（教育相談、特別活動を含む）

- 意見1：コロナ禍であるが、ボランティア活動への取組により、心の豊かさを深めることができている。生徒のアイデア・発想の中から、今できる事を考え実践していく仕組みを作り出してもらいたい。
- 意見2：コロナ禍においても、機会をとらえてボランティア活動への参加が実現されたこと、いじめや差別への対応が的確になされたことは評価できる。今日の状況ではSNSでの問題行動の把握が大きな課題となっており、本校においてデジタル上のマナー教育が不可欠であることを認識しているのはさすがである。また、地域住民からの苦情は、見方を変えれば、地域住民の方が、本校生徒を見守り、共に育てようとしていることの現れである。これからも地域との信頼関係を構築していかれることを期待する。
- 意見3：ボランティア等の地域連携は続けていってほしい。コロナ終息後は、Withコロナでの未来像を考えていってほしい。
- 意見4：ボランティア活動がなぜ必要かを教えたうえで、人の為に行動する喜びを感じさせる場作りを進めるために、地域との強力な連携を期待する。
- 意見5：情報モラル指導については、高等学校のみならず、小中学校においても、極めて優先度の高い指導事項である。よって、生徒指導主事間で小中学校における指導の内容や方法を交流することは、高等学校での指導をより充実することにつながる。
- 意見6：小中学校においては、情報モラルの内容を発展した指導として、発言元や事実確認の大切さを理解するとともに、正しい情報を主体的に選択する力を育む、ニュースリテラシーの指導の必要性を痛感している。
- 意見7：近年では、中学生も落ち着いた学校生活ができている。しかし、SNSの利用については「いじめ」など、心配である。
- 意見8：いじめは地下に潜ってしまっても表面化しない事が多々あるので、注意が必要かと思う。

第三者的立場の専門家の方にはと相談しやすいと思う。

意見9：いじめを無くすのはかなり難しい問題だと思うが、いじめで自殺する人もいるので、生徒の変化に気づければと思う。また、いじめを相談しやすい環境を作してほしい。

意見10：自転車の並列走行は、生徒自らも事故に巻き込まれる危険性が高いことを、繰り返し指導してほしい。

意見11：ボランティア等の地域連携は続けてほしい。コロナ終息後は、Withコロナでの未来像を考えてほしい。

## (2) スクール・ポリシーについて

### 【学校側】

第2回学校運営協議会での意見を参考に「岐阜県立池田高等学校 全日制課程 スクール・ポリシー」の文面等を見直した。このスクール・ポリシーのもと、生徒を成長させるために、どういったことに取り組むとよいか。

### 【アンケートより】

意見1：本校はユネスコスクールとしてESDを掲げ、グローバルな視点と地域への関心の双方に軸足をのたきわめて貴重な教育を目指している。すべての学びは経験によって身に付く。生徒の感性・適性・興味を引き出し、将来の自分の活躍のイメージを持たせるためにも、地域の中で多様な他者との生の協働の経験をすることが必要である。「福祉・環境・国際」を地域で実感できる機会をいっしょにつくっていききたいと思う。

意見2：スクール・ポリシーの三つのポリシーに「池田高校らしさ」が十分に反映されており、この目標が、同じユネスコスクールの池田中学校と共有できるとよい。

意見3：スクール・ポリシーで示された教育目標とプレゼン資料中の教育目標の関連または違いについて補足すると、よりよく理解できる。

意見4：他者との係わりの中から、自分を捉え、考える機会を作り出したい。そのための発信力を高めていきたい。

意見5：このスクール・ポリシーにあるような取組のなか、こんな生徒に成長していったら素晴らしいことだと心から思う。

意見6：生徒評価や教員評価の観点に位置付けることで、取組方法がはっきりしてくる。

意見7：授業や課外活動を通じて得られた知識や経験を公表できる場所が少しずつ増えているのがよい。教える（発表・掲示）することにより、より深く学ぶことが出来ると思うので、ぜひ続けてもらいたい。

意見8：ものごとの本質を見極める眼を養うべく、生徒が幅広い分野の本を読む習慣を身に付けられるよう、様々な働きかけをお願いしたい。ICTの時代だからこそ、読書の重要性が高まっている。

意見9：ボランティアの運営や企画に取り組めるとよい。地域連携は受けるだけではもったいない。こちらから積極的に提案し、企画してみるとよい。

意見10：夏休みなどの長期休暇時間を利用して学習ができる手法として、基礎知識がなくても出来る分野での自立（自律）研修を行う。例えば、春夏秋冬野菜等の農業研究、こども保育や高齢者福祉施設での社会学習、小規模企業での加工技術実習などが考えられる。

意見11：他国のハイスクールと一緒にICTを活用し、何ヶ国かとつながりを持つことは、ユネスコスクールしか出来ないことである。

## 5 会議のまとめ

第3回の学校運営協議会は、急遽書面開催に変更した。委員の方々には本年度の学校運営の振り返りをもとに、来年度の学校運営への指針について意見を得た。1年かけて作成してきた「スクール・ポリシー」のもと、委員の意見を参考に、来年度は以下の取組に着手し、「生徒を成長させる学校

として、保護者や地域の期待に応えていきたい。

- ①単位制のカリキュラムのもと、効果的な習熟度別授業や特講を実施することで、個別最適な学びを推進し、その学びを家庭学習の習慣化につなげる。
- ②学校設定教科「地域」を開講し、科目として学年を超えて選択できる「社会福祉基礎Ⅰ・Ⅱ」「地球環境保全」「国際交流」を軌道に乗せることで、SDGs・ESDを推進する。
- ③総合的な探究の時間に、SDGs・ESDに関連した地域解決型学習を実施する。
- ④入学当時の目標をあきらめさせないために、早い段階で自分の適性にあった進路実現の方法を理解させ、それを支援する段階を追った進路プログラムを充実させる。
- ⑤生徒会の委員会として、新たにユネスコ委員会を立ち上げ、行動力のあるリーダーを養成する。
- ⑥全国交通安全優秀校、岐阜県安全優良校として、地域の模範となるよう、さらにMSリーダーを中心とした交通安全活動や小中と連携した防災活動に力を入れる。